

H1●出力:120W+120W(8Ω)、200W+200W(4Ω)●寸法/重量:W430×H80×D480mm/15kg●備考:バランス入力HOT=2番ピン H200●出力:200W+200W(8Ω)、350W+350W(4Ω)●寸法/重量:W430×H120×D430mm/25kg●備考:バランス入力HOT=2番ピン●問合せ先:株式会社エレクトロニクス03(3530)6276

ヘーゲル

H1 (写真上)
¥300,000

H200 (写真下)
¥500,000



国産や米国製アンプからは聴けない深い味わい
今年、日本に再上陸を果たしたノルウェーのブランド、ヘーゲルのプリメインアンプ2機種

高津修

本誌前号でも紹介されたノルウェー国籍、ヘーゲル・ブランドの、インテグレートッドアンプ兄弟である。どちらもライ

ンレベル入力専用で、バランス入力端子を1系統もつことが特徴。H1は定格出力120W×2(8Ω)。H200が同200W×2。後者はバイワイヤリング対応の2系統出力端子を備える。

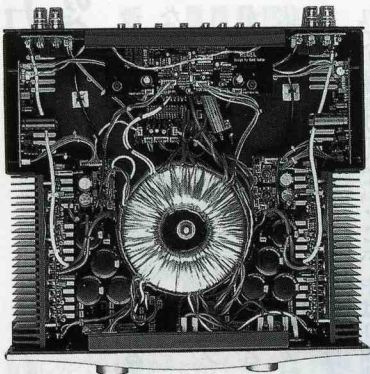
いっぽう、両機ともにプリ出力端子があり、わけでもH200は2系統をもっている。このことからみると、シンブルなプリパワーアンプにとどまらない高度なニーズを視野に入れているのかもしれない。

ヘーゲル・アンプの技術的な勘どころはヘーゲル・サウンドエンジン・テクノロジーと呼ばれる増幅回路にあって、通常のフィードバックシステムに対するフィードフォワード技術により、高速広帯域なエラー補正をおこなっているという。エラー補正といってもアナログ増幅だから、比較器を用いたはずみ低減方式の一種と理解すればよいだろう。この技術は同社の特許で、H1にもH200にも搭載されている。

さてそれぞれの音のだが、相似な肌

合いでありながら、トータルな印象はずいぶん異なる。というより、ユーザーゲットが完璧にちがうのでは、と思う。

H1はゆつたり豊潤、おおらかでハイエンドにかすかなアクセントをつけたアイライン美人。音楽の全体像をうまくつかまえて実に心地よく聴かせるタイプ。H200は、朗々ソノラスな雰囲気表現の魅力は同様だが、繊細でしなやかな反応の速さや、熟成された味わいの深さにおいて、これはまったく別物の大器だと聞こえる。日本産や米国系の半導体アンプから、はっきりいうがセパレートアンプも含めて、こんな音は聴けない。ただしハイビー・ハンコックの音楽は水っぽくふやけ気味。文化のちがいがあ



フロントパネル側中央部に大型のトロイダルコア電源トランスを搭載したH200の内部。左右対称のパーツレイアウトが施されている。